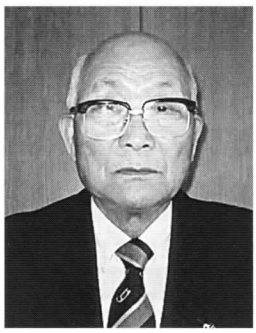
スポーツくしろ

第79号

発行　釧路市スポーツ協会

令和３年３月３１日

令和２年度（第53回）釧路市スポーツ賞　中嶋　進氏



永年にわたってスケート競技の普及振興に貢献された釧路スケート連盟中嶋進氏（78歳）が、本年度の釧路市スポーツ賞を受賞されました。

中嶋氏は昭和48年に釧路スケート連盟会員となり、以来46年以上にわたり連盟の運営に積極的に取り組まれ、平成16年から平成26年まで理事長を務め、連盟の中核として組織を取りまとめ、世界・全国大会の誘致・開催に卓越した手腕を発揮されました。また、北海道スケート連盟の選手強化部長・スピード委員長、日本スケート連盟理事を歴任され、本市はもとより日本におけるスケート競技の普及振興に多大なる貢献をされています。

釧路市スポーツ奨励賞　土屋　健介氏

土屋健介氏（22歳）は釧路北陽高校入学後にハンドボールを始め、札幌大学進学後、北海道ハンドボール秋季リーグ大会ではチームを優勝に導き、最優秀選手賞、得点王を受賞し、その実績が認められ、北海道から唯一U-22日本代表入りを果たし、アジアU-22ハンドボール選手権での全勝優勝に大きく貢献されました。選手権での活躍は次の世代を担う子どもたちに夢と希望を与えたものであり、釧路市のスポーツ振興に大きく寄与されています。

授与式は令和２年10月31日（土）、釧路市議会議場（釧路市役所２階）で行われました。式辞で岡部義孝教育長は「この度の栄誉を一つの通過点とされ、釧路市のスポーツを更なる高みに導くけん引役として、なお一層ご活躍いただきたい」と挨拶し、受賞者の中嶋氏は「受賞は生涯忘れられない思い出となります」、土屋氏は「釧路のハンドボール、そして釧路市に貢献できるよう精一杯頑張ります」と挨拶しました。

釧路市柳町スピードスケート場屋内化要請活動（９月16日）

釧路市スポーツ協会足立会長と釧路スケート連盟狩野会長代行が釧路市役所を訪れ、柳町スピードスケート場の屋内化について、蝦名市長、岡部教育長、松永市議会議長に要請書を手渡しました。

要請は、釧路スケート連盟で早期実現に向け「釧路市柳町スピードスケート場屋内化構想」を策定したため、あらためて行ったものです。

足立会長は「屋内リンクは世界基準になりつつあり、子どもたちや少年団の強化にもつながる。是非検討願いたい。」と訴えました。

その後、釧路市議会の各会派代表に要請書を渡しました。

また、国会議員、道議会議員の事務所を訪れ要請書を渡し、釧路商工会議所では栗林会頭に屋内化構想について説明し、実現に向けての協力要請をしました。

永年の功績を讃えて
令和２年度　釧路市スポーツ協会 功労賞

令和２年度功労賞は釧路地方弓道連盟の髙橋暢二氏・和田信幸氏、釧路水泳協会の遠藤上一氏の３人が受賞されました。

表彰式は例年、釧路市体育祭総合開会式で行っていましたが、本年度の第75回体育祭は新型コロナウイルスの関係から中止になり、開会式も中止となりましたため、髙橋氏、和田氏の両氏には、11月１日（日）鶴ケ岱武道館にて大会前に弓道連盟関係者、選手等が見守るなか、足立功一会長から授与いたしました。遠藤氏は同日に自宅を訪問し足立会長から授与いたしました。

髙　橋　暢　二　氏（90歳）　釧路地方弓道連盟顧問

連盟役員として長きにわたり上部団体との連携、各種講習会、大会、審査会等の責務を果たし、会員の質の向上、昇格昇段の増に繋げるなど連盟の強化、発展に寄与されました。釧路管内唯一の七段保有者として、競技の普及振興に大きな功績を残してこられました。

和　田　信　幸　氏（87歳）　釧路地方弓道連盟顧問

昭和39年高校の弓道部顧問となり、生徒指導のため弓道を始め、昭和59年に６段、平成10年に教士認許を取得し、連盟と高校の連携強化のため貢献されました。役員としても連盟の運営、強化に尽力され、現在も後進の指導に当たっており、その功績は大であります。

遠　藤　上　一　氏（74歳）　釧路水泳協会副会長（兼理事長）

協会創設以来、長きにわたり水泳の普及、強化に貢献されるとともに協会活動を通して、子どもから大人までが水泳に親しむよう支えてこられました。現在も連盟の要として重要な役割を担っており、その功績は誠に大きいものがあります。

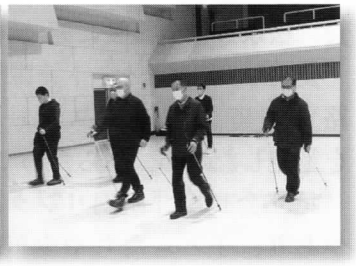
令和2年度釧路管内スポーツ協会連絡協議会
役　職　員　等　研　修　会

釧路管内８市町村の体育協会・スポーツ協会で組織する釧路管内スポーツ協会連絡協議会は、釧路市スポーツ協会阿寒支部の担当で、11月14日に阿寒町公民館で「役職員等研修会」を開催しました。

管内協会における競技力の向上、地域スポーツの振興と連携強化を目的とするこの研修会は講演と実技が行われ、役員ら22名が新型コロナウイルス感染防止を講じた会場でマスクを着用し参加しました。

講演は「折れない心と雪の妖精シマエナガ」との題で、自然写真家（前田一歩園自然普及課長）の山本光一氏が北海道だけに生息している鳥「シマエナガ」の伝道師として、巣を壊されてもまたチャレンジする姿勢を重ねることで諦めない気持ちや仲間を大切にする思いなどを伝えていました。

実技では「ノルディックウォーキング」と題し、白糠町総合体育館・温水プールの指定管理をしている㈱オカモトの健康運動指導士 餌取利行氏の指導のもと、体感運動、脳トレーニングを取り入れた運動、正しいウォーキング、ノルディックウォーキングなどについて体験し、実り多い研修となりました。



釧路市柳町スピードスケート場屋内化構想（概要）

基本理念

① 冬季スケート競技（スピード・フィギュア・アイスホッケー）による「地域振興」と「地方創成」の中核施設とします
② 夏季競技と冬季競技の両方に親しみ、バランスの取れた身体能力を養うための中心的施設とします
③ 全日本級の大会、世界大会を開催することができる国際規格の屋内スケートリンクを作ることで、地域の「冬季スポーツ」の中心的施設とします

屋内化により期待される効果

① 釧路市における経済効果

○「スケートの街・合宿の街」として、更に認知されることによる観客や合宿利用の入込増に伴う経済効果
○道東初の全天候型の大規模スタジアムによるイベント等の誘致面での優位性

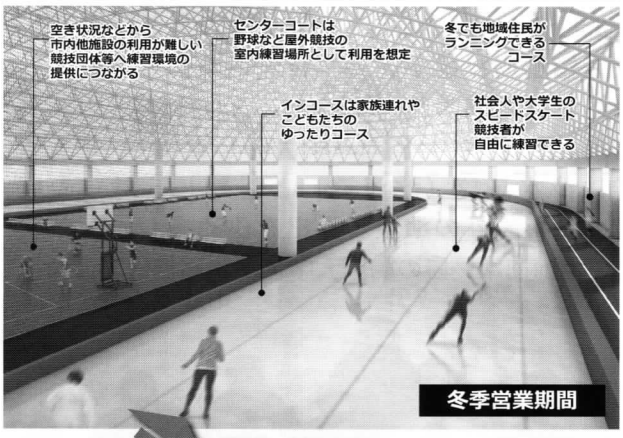
② 市民への波及効果

○スピードスケートや他のスポーツの人口増による体力向上・健康増進
○市街地に全天候型の施設を作ることによる市民への公共サービス向上と、子供から高齢者まで交流促進

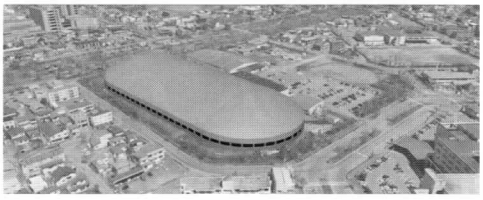
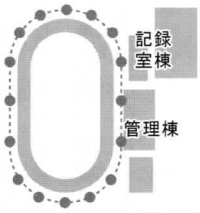
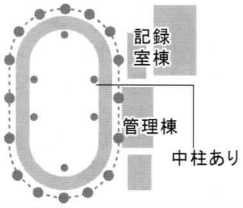
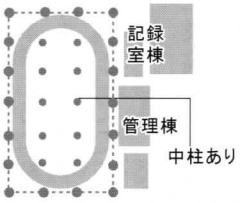
③ 国内外へのＰＲ効果

○帯広市や網走市との連携による全国有数の合宿地として認知されることによる相乗効果
○２０３０年の招致が期待される札幌冬季五輪のサブリンク（練習会場）としての利用はもとより、事前合宿の候補地としての誘致を優位に進めることができ、一極集中ではなく、釧路圏内への経済波及効果を確立

上屋増築後　内部イメージ（※建物形状はＢ案で作成）



建設イメージについて

建設イメージ	A案 全面屋根あり（膜構造アーチ）	B案 全面屋根あり（内部柱付）	C案 全面屋根あり（倉庫規格同等）
鳥瞰イメージ			
平面イメージ			
概要	・リンク全体に上屋をかける案 ・全天候型で安定したリンク運営が可能 ・基礎形状により既存解体の可能性有	・A案に内柱が付いた案 ・外周基礎負担の軽減を図る ・視界が遮られる部分が発生する	・倉庫と同等の建築仕様を想定 ・3案の中で最もコストが安価な案 ・内部に複数の柱が必要となる
概算工事費	約41.5億円（269千円／㎡）	約34.8億円（249千円／㎡）	約29.7億円（195千円／㎡）

※概算工事費は主に上屋増築部分の建設費用を示しており、設計や監理、各種申請、その他附属施設の整備費用などは別途となります
※概算工事費は 2020 年 3 月現在の建設コストの相場や類似事例を参照し算定したもので今後の詳細検討により変動する場合がございます

ひがし北海道クレインズ 全日本アイスホッケー選手権大会（A）優勝

第88回全日本アイスホッケー選手権大会（A）は12月12日、13日に八戸で社会人、大学が不参加となる規模縮小しての開催となりました。

第１回戦は10月18日アジアリーグの横浜グリッツ戦の成績が準用される戦いで、４対２で勝利し、準決勝は12月12日に前回優勝の栃木日光アイスバックスを延長戦により２対１と劇的勝利を収めました。決勝は王子イーグルスに勝利した東北フリーブレイズと対戦し、２ピリに先制するとそのまま勢いで３対１によりクラブ発足２年目で日本一の座に就きました。

第70回全国高等学校スケート競技 アイスホッケー競技選手権大会　武修館高校　５年ぶりの優勝

全国高校アイスホッケー選手権大会が令和３年１月21日から25日まで長野県岡谷市・軽井沢町で開催されました。今大会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、北海道予選会が行われなかった異例の大会となり、無観客で行われました。

武修館高校は１回戦、日光明峰高校（栃木）を７対０で完封勝利すると、２回戦の渋川工業高校（群馬）には33対０で大勝しました。準々決勝は清水高校（北海道）と対戦し５対０の完勝で２年ぶりの準決勝進出を決めました。準決勝では前回準優勝の駒沢大学苫小牧高校（北海道）と対戦し、パワープレーでの強さをみせ２得点をあげると、最後には相手６人攻撃でパックを奪い無人のゴールにたたき込み、３対１で勝利し５年ぶりの決勝進出を果たしました。

決勝は前回優勝の白樺学園高校（北海道）と対戦しました。試合は開始早々31秒で先制し１分10秒にはパワープレーで追加点をあげると、一気に流れをつかみました。シュート数でも武修館が49本、白樺が25本と常に主導権を握り５対２で圧勝し、全国制覇を果たしました。

優勝は前身の緑ケ岡高校、釧路短大附属高校時代を含め、５年ぶり４度目となりました。

編集後記

令和２年度はコロナ禍で多くの大会が中止となり、本協会の第75回体育祭も中止となった。歴史ある一大事業がこんなかたちで開催できなくなるとは考えもしなかった。▲会議も感染拡大防止のため書面会議となり、役員の皆さんとお会いすることがなかなか難しかった１年でもあった。▲釧路市においても日本ハムの試合、釧路湿原マラソン、全日本少年アイスホッケー大会（中学・男子）など大きなイベントが次々と中止となった。そして東京オリンピック・パラリンピックの延期。▲そんな中開催された大会も数多くある。消毒、検温、人と人との接触を最小限にする取組や無観客試合など感染症対策を講じ大変なご苦労をされ、試合をする機会を設けてくださった競技団体の皆さんにはただただ感謝しかない。▲冬のインターハイ・アイスホッケーが無観客試合となったためネット配信され、全国制覇した武修館高校と釧路工業高校の全試合が観戦できた。▲大会が一日でも早くいつも通り開催されることを願う。